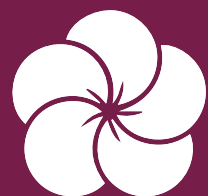


入浴剤OEMのご案内



Spa Tokyo

<機能性・企画性・話題性・デザイン性・信頼性>

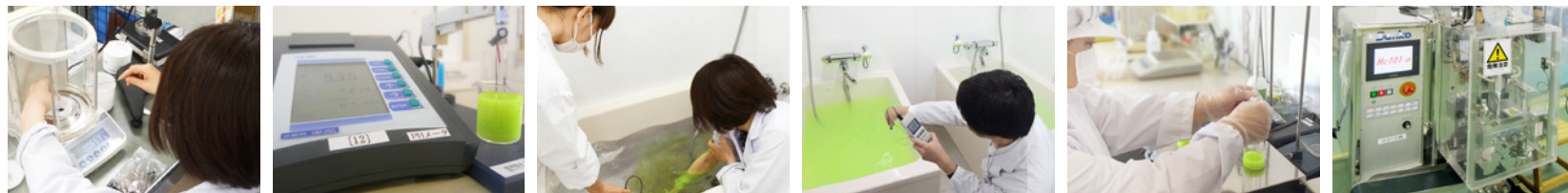


*本資料には薬機法（旧薬事法）に定める効果効能の域を超えた記述が含まれております。企画ご提案の表現範囲内としてご理解頂けます様、何卒ご了承ください。

お客様の声を参考に商品の開発改良を行い、お客様のこだわりを商品にすることを目指します。

■多様化するニーズに対応

当社は、様々な美容原料を使った入浴剤、ご当地入浴剤、コラボ入浴剤などを得意とし、入浴（効果）実感を重視する機能性、企画性、話題性、デザイン性、信頼性の高い製品づくりをモットーとしております。化粧品販売会社様、訪問販売会社様、通信販売会社様、お土産販売店様、健康ランド・スパ様、スポーツクラブ様など、様々な販売形態に対応したOEM入浴剤をご提供いたします。



■入浴剤の種別について

浴槽に入れるものは全て「入浴剤」と呼ばれていますが、「入浴剤」と標榜できるのは医薬部外品のみであり、化粧品は「入浴料・入浴化粧料・浴用化粧品」のような名称が一般的です。尚、雑貨でありながら入浴剤を標榜する製品を時折見かけますが、雑貨品は浴槽のお湯に香りや色をつけることを目的としているため、人体に対する効果を謳うことは一切できず、このような標榜は適切ではありません。

医薬部外品

厚生労働大臣による承認制で医薬品同様厳しく規制されるものの、効果効能として「あせも・荒れ性・うちみ・肩のこり・くじき・神経痛・しっしん・しもやけ・痔・冷え症・腰痛・リウマチ・疲労回復・ひび・あかぎれ・産前産後の冷え症・にきび」を謳うことができます。成分情報や有効成分の有効性、過去にその有効成分が使われた前例など、多量の資料を揃えて厚労省の審査機関に書類を提出する必要があり、承認が下りるまでに約6ヶ月～10ヶ月要します。

化粧品

承認制ではないので配合の自由度が高く、コンセプトに沿った成分選択が可能です。効果効能については「肌をすこやかに保つ、うるおいを与える、ハリを与える」など、一般的なスキンケア化粧品と同様の訴求に限定されますが、販売名と処方が確定していれば、届け出を出すことで直ぐに生産が可能です。



株式会社Spa Tokyo

〒112-0002東京都文京区小石川5-31-6 2階

TEL:03-3868-3631 FAX:03-3868-3899 <https://spa-tokyo.co.jp/>

※本資料内に於ける表現は薬機法（旧薬事法）を配慮しておりませんので、商品の宣伝には一部このままでは使用できません。